

バイオマス利用技術の現状とロードマップ

バイオマス活用推進会議(内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土、交通省、環境省の関係7府省で構成)が**世界初の日本最先端新技術と認証**したMRM・亜臨界水資源再生装置の高速加水分解(亜臨界水)技術がバイオマス技術ロードマップに採択されました。

■内閣府 認証

Cabinet Office approved

■総務省 認証

Ministry of Internal Affairs and Communications approved

■文部科学省 認証

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology approved

■農林水産省 認証

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries approved

■経済産業省 認証

Ministry of Economy, Trade and Industry approved

■国土交通省 認証

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism approved

■環境省 認証

Ministry of the Environment approved

バイオマス利用技術の現状とロードマップ(見直し内容の概要)

○平成24年9月、「バイオマス事業化戦略」と併せて決定された「バイオマス利用技術の現状とロードマップについて」(以下、「技術ロードマップ」という。)について、関係府省、国立研究開発法人等からの情報を基に見直しを行った。

技術ロードマップ見直しのポイント

○新規追加した技術7件、更新・見直した技術31件、変更なし17件

○実用化、実証、研究の技術レベル毎に一覧表で技術を整理

○活用事例が多い又は、今後、更なる活用が見込まれる等の主要な技術の課題について、対策の検討状況や進捗状況を整理

◆新規追加された技術事例

熱化学的変換／高速加水分解(亜臨界水)

原料:木質系、草本系、食品廃棄物、下水汚泥、家畜排せつ物等

製造物:飼料・肥料

技術レベル:研究・実証(一部実用化)

現状:臨界点以下の亜臨界水領域(事業化の目安は扱いやすい

100~200℃、10~20気圧)で加水分解反応により有機物を

効率的に分解し資源利用する技術。高機能堆肥や細菌の無害化

など多様な技術展開が見込まれる。

② 熱化学的変換／高速加水分解(亜臨界水)

原料:木質系、草本系、食品廃棄物、下水汚泥、家畜排せつ物等
製造物:飼料・肥料

技術レベル:研究・実証(一部実用化)

現状:臨界点以下の亜臨界水領域(事業化の目安は扱いやすい
100~200℃、10~20気圧)で加水分解反応により有機物を
効率的に分解し資源利用する技術。高機能堆肥や細菌の無
害化など多様な技術展開が見込まれる。

◆反応槽(第一種圧力容器)諸元

タイプ 槽容量	1日当たりの標準処理量 (3バッチ/日運転)
MRM-2 2m ³	16m ³ /日 ○生ごみ:5トン(1万人) (幅:7.6,奥行:2.0,高さ:3.7m)
MRM-6 6m ³	48m ³ /日 ○生ごみ:15トン(3万人) (幅:9.4,奥行:3.0,高さ:4.3m)

